

今年度最後の月別「企画展示」です！



「ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピック」が、先日開幕しました。今月の「企画展示」は、それにちなんで、「冬季オリンピックとイタリア」にしました。冬季オリンピックで活躍した選手のエッセイ、各競技の解説本、イタリアの歴史や文化などに関する本を展示しています。今回の「企画展示」が、今年度最後となります。ぜひ来館ください。

さて、二人の図書委員に、今回の展示本から興味のある本を選んでもらいました。彼らが選んだのは、**中橋恵・森まゆみ『イタリアの小さな村へ』(新潮社、2018年)**、**宮下規久朗『ヴェネツィア』(岩波新書、2016年)**です。その本を選んだ理由を尋ねたところ、「イタリアの地域文化がおもしろそだから」と、一人の委員が答えました。地域の多様性に富むイタリアの歴史的・文化的背景を踏まえると、鋭い指摘だと思います。皆さん、図書委員のおすすめ本を読んでみてはいかがでしょうか。



前号の「図書館通信」で、今井むつみ・秋田喜美『言語の本質 ことばはどう生まれ、進化したか』(中公新書、2023年)を紹介しました。やや専門的な内容を含んでいるこの本は、難しく感じられるかもしれません。著者の一人である**今井むつみ**さんは、「ちくまQブックス」シリーズの一冊として、**『A1にはない「思考力」の身につけ方』(筑摩書房、2024年)**を著しています。本書は、『言語の本質』の要点について、中高生向けに分かりやすく解説しています。その中で、「変化の激しい社会」においては、「思考力」、つまり、「知識を使って、推論し、問題を解決する力」が求められると、著者は言います。「推論」する力を養うためには、「記憶の中に存在する、問題解決に必要なことばや概念にアクセスし、素早く取り出せる」「情報処理能力」と、自分の「思考をコントロールする」「実行機能」とを鍛えることが大切。「すでに持っていることばの知識を使い、新しいことばの意味を考える練習」を繰り返すことで、「情報処理能力」や「実行機能」はさらに向上するとのことです。このような「思考力」は「生きた知識」としての「ことば」に支えられるとのことですが、そうした**「生きた知識をつくるための一番手軽なツール」が読書**と論じます。読書の意義も明確にされている本書をぜひ通読してください。

大学での著者の最終講義をまとめた**『人生の大問題と正しく向き合うための認知心理学』(日経プレミアシリーズ、2025年)**もおすすめの一冊です。

＜図書館・放課後企画＞ のお知らせ

動物の保護活動について話そう！

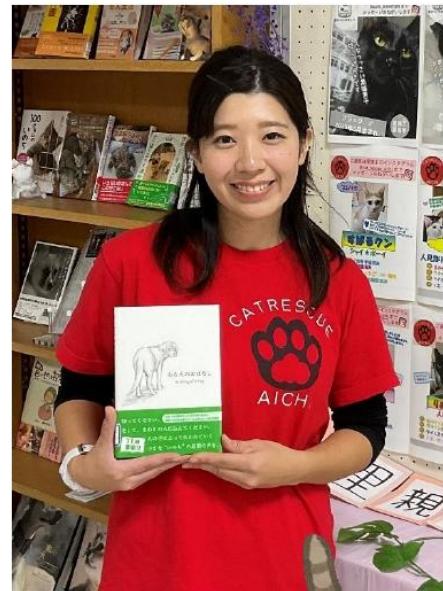
2026年 2月 9日（月） 16:00～17:00

図書館2階
多目的コーナー【サクラボ】

講師：高瀬 充花 さん（「キャットレスキュー愛知」代表）

「小学6年生の頃、保護犬の里親になりました。売れ残った動物が殺処分されていく現状を知るうちに、この問題を考え、何かしらの行動を起こしたら、社会が変わるのでないかと思いました。」

これは、高瀬さんからいただいたコメントの一部です。彼女は「キャットレスキュー愛知」という団体を設立し、保護猫活動に取り組まれています。今回の企画では、こうした動物の保護活動について話していただきます。また、参加者の方々と意見を交換されたいとのこと。皆さん、ふるってご参加ください。



当日、保護猫も
参加します！



お問い合わせ

○花田先生（中学部）

○齋藤先生（図書館司書）

2月27日（金）の12時30分頃から、「DVD上映会」が開催されます。皆さん、ぜひご予定ください。